

ほうおうざん
鳳凰山

ほん みょう じ
本 妙 寺

0877-49-0057

- 【宗 派】 法華宗
【本 尊】 宗祖日蓮尊宝の久遠常住輪円具足の南無妙法蓮華經
【開 基】 にちりゅうしょうにん 日隆聖人
【創 建】 室町時代
【縁 起】



本妙寺はおよそ550年の昔、室町時代のはじめ後花園天皇の嘉吉2年、この地に布教に来られた法華宗中興日隆聖人によって開かれました。

当時、この地は将軍足利義満公を育てた細川頼之公の領国であり、居住地でもあったことから、讃岐の国の政治経済文化の中心地として大いに栄えておりました。しかし、この地は海浜のため飲料に供する水が乏しく、人々は体調を損ね、大いに難渋しておりました。それを憐れんだ聖人は法華祈禱をなされ、自らの杖をもって桐の巨木の根本を掘られたのです。するとそこより清澄なる水が渾々と湧き出で、またその時、桐の巨木には瑞鳥鳳凰が飛翔し舞い降りたのです。人々は眼前の奇跡に驚き、聖人の御威徳に心より感謝したということです。

以来この水は、鳳凰霊水と呼ばれ、いかなる干ばつにも一日として涸れることなく湧き続けており、御題目を唱えつつ戴くことによって、成人病等について霊験まことにあらたかと伝えられています。またお寺の「鳳凰山」という山号も、このお話に由来するものです。



井戸

【お寺の主な建物】

本 堂 宝暦7年(1757年)再建立という記録が最も古く、その後幾度もの改修がなされ、平成10年には屋根瓦が総吹き替えされています。

客 殿 正徳2年(1702年)再建立、明治中頃に改修の記録があります。

番神堂 三十番神をお祀りする御堂で、讃岐六番神のひとつ。日隆聖人はこの御堂を足がかりに布教をされ、本妙寺草分けの御堂といわれています。

信行院 しんぎょういん 本妙寺塔頭(たっちゅう)。以前は十数ヶ坊の塔頭を擁していましたが、現存するものはこの御堂ひとつです。

鐘楼堂 しょうろうどう 安政6年(1859年)に再建立。先の大戦に供出後、昭和22年梵鐘鑄造の記録があります。平成3年に鐘楼堂改修、梵鐘鑄造されています。



客殿の大広間



鐘楼堂

～言い伝え～「生きていた大銅像」

境内には日蓮聖人、日隆聖人の大銅像が建っていますが、昭和20年終戦当時、大砲や銃の弾として、県庁からこの大銅像にも召集令が下されました。時の住職は大供養会を催し、大きな赤だすきをかけられた大銅像のお別れ法要を営みました。

翌日、県庁職員が引き取りのため宇多津へ向かいましたが、鬼無あたりで全員が腹痛やら頭痛で歩くこともできなくなったそうです。「このまま無理して行って大銅像を引きおろせば皆の命も危ないぞ」と共々に話し合い、引き返してしまったそうです。

不思議なことにその翌日が8月15日終戦の日でした。天皇の終戦放送を聞いた信者達は、大銅像の前に集まり読経したといわれ、日蓮聖人、日隆聖人の大銅像には魂が入っていたのだと伝えられています。

【主な年中行事】

元旦祝祷会	1月	年頭の初参り
新年祈願法要	1月	御札の授与
春季彼岸永代祠堂法要	3月	参詣者にはおはぎの振舞いがあります。
秋季彼岸永代祠堂法要	9月	参詣者にはおはぎの振舞いがあります。
大晦日除夜法要	12月	除夜の鐘つき、お守りの授与